

群 教 七	G01 - 04
	令2.275集
	国語 - 高

国語総合において、人物像に着目して 古典文学に親しみをもてる生徒の育成

—キャラクター分析表の作成活動を通して—

特別研修員 清田 多恵子

I 研究テーマ設定の理由

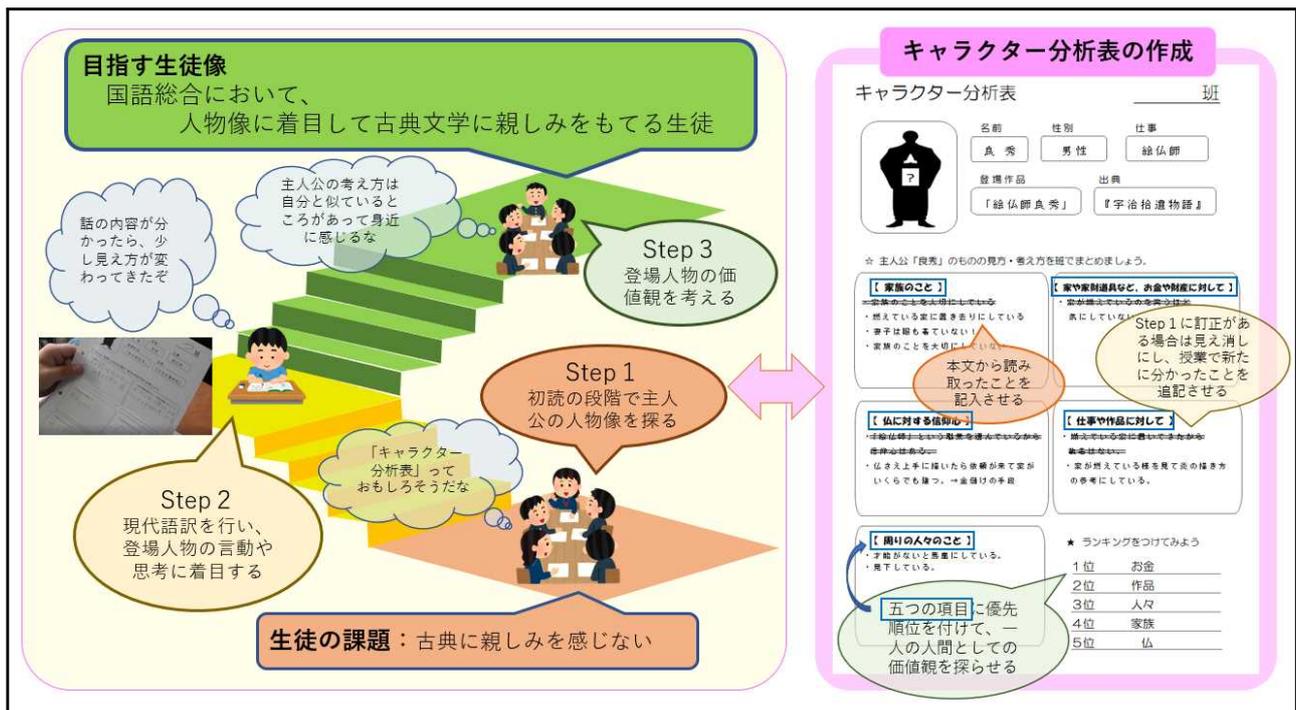
平成28年12月の中央教育審議会答申には「国語科における課題」として、「高等学校では教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され」ていること、また、「古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題」であることが示されている。

また、研究協力校は実業高校であるため、部分的な現代語訳があっても、生徒は古典教材に対して苦手意識をもっている。

生徒の学習意欲を高めるためには、古典に親しみをもてるようにする必要があると考える。古典に登場する人物を一人の人間として捉え身近な存在として感じさせることで、登場人物の考えや行動に共感したり話の内容を楽しんだりすることができ、古典に親しみがもてるようになるのではないかと考えた。登場人物の人物像に着目させ、学習を通して深く考え、登場人物の考え方や価値観を探ることで、登場人物を一人の人間として考えさせたい。また、苦手意識をもつことに対しては、話し合い活動を多く取り入れることで難しく感じる気持ちを軽減させ、活発に活動することにつながられるようにする。当時の人のものの見方や考え方、その考え方の背景にあるものなどを学習し、キャラクター分析表の作成を通して人物像を浮かび上がらせ、自分と比較させることで古典文学に親しみをもてる生徒を育成したい。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

古典における登場人物の人物像を把握し古典文学に親しみをもたせるために、以下の順序で「キャラクター分析表」を作成させる。毎時間振り返りとしてその時間で得た気づきを追記することで、授業を通して徐々に人物像を明らかにしながら、古典文学が身近に感じられるようにしていく。

- (1) 初読の段階で人物像を探らせる。現代語訳が部分的に書き入れられた状態の教科書の本文を読み、「キャラクター分析表」の中の五つの項目をヒントにして登場人物の人物像を個人で考えさせる。その後バズセッション形式で話し合いを行い、班として一枚の「キャラクター分析表」を作成させる。
- (2) 現代語訳を行い本文の全容を確認した後、班として作成した一枚の「キャラクター分析表」に授業を通して分かったことを個人で追記させる。初読の段階での考察が間違っていた箇所は線で見えるように消し、訂正させる。学習を通して何が分かったのか、登場人物のものの見方や考え方はどうだったのか、可視化できるようにする。
- (3) 「キャラクター分析表」の五つの視点に優先順位を付ける活動を通して、登場人物のものの見方や考え方をより深く考えさせる。順位付けを行いながら価値観を探らせることで登場人物を一人の人間として捉え、人物像をより深く考えさせながら自分自身と比較させる。

なお、年間を通して、古典の授業では「キャラクター分析表」を作成させ、それを資料として年度末にキャラクター投票を行う。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「キャラクター分析表」の項目を事前に準備しておくことで、部分的な現代語訳しかない教材に対して手探りの状態でも人物像を探ろうと努めていた。また、古典に苦手意識をもつ生徒も話し合いによって人物像を把握しようとしていたので、バズセッション形式の話し合いは有効に働いていた。事前に話し合いを進行させるための役割を班内で決めてから行ったことで、自分なりに役割を認識しながら協力して取り組む姿勢を見せていた。
- 「キャラクター分析表」を段階的に仕上げていく作業行程が、生徒自身に自分の学習過程を可視化させるため、生徒は「授業で分かったこと」を客観的に知ることができた。
- 登場人物の思考に優先順位を付ける活動が生徒の話し合いを活性化させていた。他班との違いをよく考え、根拠となる箇所を探し出そうと本文を何度もよく確認していた。また、同じ箇所を根拠としながら異なる解釈で順位が変わる場合でも、他班の考えに流されず、自班の検討結果に自信をもって発表していた。五つの項目を一人の人間の価値観として順位付けしながら整理することで、人物像をより具体的に考えることができていた。
- 授業後の振り返りアンケートの結果から、登場人物を一人の人間として見ることができていた。「話を読み進めていくうちに本当の性格を知り自分と似通っているところがある」など、生徒自身が自分と登場人物の人柄を比較していたことから、人物像に着目して作品を読むことにより古典文学に親しみをもつことができたのではないかと考えられる。

2 課題

- 「キャラクター分析表」の五つの項目は、初読の段階において人物像を考える上で手助けになるようにと教師が考えたものであるため、思考の優先順位を決める時には生徒自身で項目を考えさせた方が、人物像についてより深く考えられたと感じる。

実践例

1 単元名 「古文入門 古文の世界へ（『絵仏師良秀』）」（第1学年・2学期）

2 本単元について

本単元では本文から登場人物の行動や考え方を読み取り、主人公の人物像について考える力を養うことを目指す。人物像に着目して本文を読むことで古典作品への親しみにつなげたい。主人公である「絵仏師良秀」についての「キャラクター分析表」を作成する活動を通して、内容理解を深めながら人物像について考える力が養えると考えた。部分的な現代語訳しかない本教材は生徒にとって意欲が高りにくい教材である。苦手意識を払拭しつつ内容理解に焦点を当てるため、品詞分解や現代語訳といった文法的な学習を極力簡略化し、人物像について考えるための話合いに特化した。

目標	「絵仏師良秀」を読むことを通して次の事項が身に付けられるようにする。 ア 古文に興味をもちながら、話合いに対して意欲的に取り組もうとする態度を養う。 (関心・意欲・態度) イ 本文から登場人物の言動や考え方を読み取り、主人公「絵仏師良秀」の人物像について考える力を養う。 (読むこと) ウ 文語のきまりに従って本文を読むことで、古文特有の読み方を理解する。 (知識・理解)	
評価 規 準	(1) 古文に興味をもちながら、話合いに対して意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】 (2) 本文から「絵仏師良秀」の行動や考えを読み取り、「キャラクター分析表」にまとめている。 【C 読むこと(1)ウ】 (3) 文語のきまりを理解して本文を読むことができています。 【知識・理解】	
過程	時間	主な学習活動
つかみ	第1時	・古文に関する既習事項の復習を通して、本文を正しく読めるようにする。
追究する	第2時	・「キャラクター分析表」の作成を通して「絵仏師良秀」の人物像を想像する。
	第3 ～4時	・現代語訳の確認を通して本文の内容を把握する。 ・前時に班で作成した「キャラクター分析表」に本時で気付いたことを記入する。
まとめる	第5時	・「絵仏師良秀」の思考に優先順位を付ける活動を通して「絵仏師良秀」の人物像をより具体的に考えさせる。登場人物に対する共感や内容理解を通して古典作品に親しみがもてるようにアンケートを使って振り返りを行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たる。本時のねらいは『絵仏師良秀』の思考に優先順位を付けることで、人物像をより具体的に考えさせることである。本時の活動を通して「絵仏師良秀」の「キャラクター分析表」を完成させる。

手立て：「キャラクター分析表」の五つの項目に優先順位を付けさせる

「キャラクター分析表」の五つの項目に優先順位を付けさせる活動を通して、登場人物のものの見方や考え方をより深く考えさせる。順位付けを通して価値観を探り、登場人物を一人の人間として捉えてみることで人物像をより深く考え、共感や内容理解を通して古典作品に親しみをもたせるようにする。

4 授業の実際

(1) 前時までの流れ

生徒は1学期の古文「児のそら寝」の学習で「キャラクター分析表」を作成する活動を経験しているため、登場人物のものの見方や考え方を1枚の紙にまとめる作業であることは理解している。本単元第

2時では、6人から7人で班を作り、班内で話し合いを進行させるための役割分担を決めて「キャラクター分析表」の作成に取り組んでいるため、バズセッション形式で話し合いをする準備ができています。第3時・第4時で現代語訳や簡単な文法事項を学習しているため、全体的な話の流れや「誰が何をしたのか」「誰がどう考えているのか」といった基本的な内容は把握している。

(2) 本時の導入

前時に学習した現代語訳のワークシートと「キャラクター分析表」を資料として、登場人物の思考を比較するワークシートに取り組んだ(図1)。登場人物がそのような行動をとったのはなぜか、行動の原因となる思考をまずは個人で考え、班編成後、お互いにどのように書き込んだのか見せ合い、次の話し合いにつなげた。

(3) 本時の展開

導入で作成した図1と現代語訳を参考に「絵仏師良秀」の思考に優先順位を付ける話し合いを行った。「キャラクター分析表」の五つの項目をそれぞれ、「家族」「仏」「人々」「お金」「作品」と簡潔な言葉に改め、ホワイトボードに1位～5位を書き出し黒板に掲示してクラス全体で共有した。その後、他班との違いを再度班別に検討させ、クラス全体で順位付けを行った。

初めは1位に「作品」と「仏」の二つが上がってきていたが、クラス全体で検討したことで「作品を上手に描くことで家が百軒も千軒も建つくらい依頼が来る」ということは「お金を得るために仏を上手に描いている」と考えられるから、一番大切にしているものは「お金」とであると決定した。

次に2位と3位が拮抗したため、全ての班で順位が低かった「家族」と「人々」から再度順位付けを行った。多数決を取ったり根拠を発表し合ったりしても決定的な差が出なかったため、この二つは同位とした。

最後に「仏に対して信仰心があるかどうか」を考えた際、生徒から「絵仏師という職業を選択していることは信仰心があるからこそ」といった発言や「一番お金を大切に考えているのだから、そのような欲がある人間は仏教徒ではない」といった発言など、様々な意見が出された。本文中の「仏」に関する記述を抜き出し、板書しクラス全体で再検討した結果、最終的に生徒は「お金を稼ぐための手段に過ぎない」と判断し、「仏」を最下位に位置付けた。「作品」に関しては上位の「お金」との相互関係から順位が決定した。この順位付けをするための話し合いで、本文をよく読み話し合ったため、「キャラクター分析表」に追記する時間を設け、年度末のキャラクター投票に向けて、クラスとして1枚の「キャラクター分析表」を完成させた(図2)。

振り返りはアンケートを使用して行った(次ページ表1)。学習を重ねることで人物像を理解していくことができたかを問う項目を通して、生徒が自身の学習を客観視できるようにした。また、「絵仏師良秀」を一人の人間として捉え、身近な存在として意識できたかを問う項目を通して、登場人物と自分を比較したり共感したりしながら、作品への親しみにつなげられるようにした。

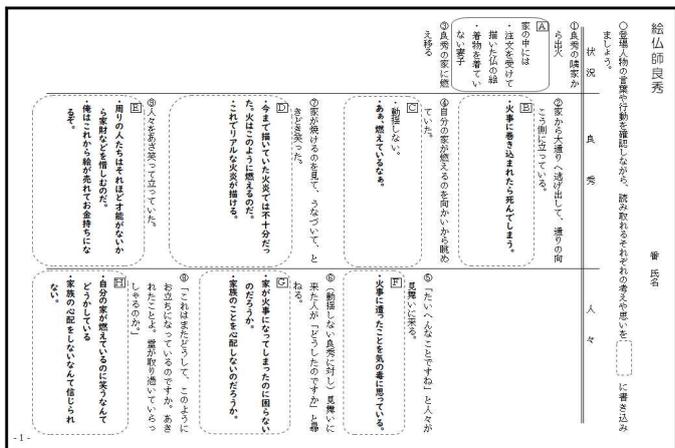


図1 思考比較のワークシート

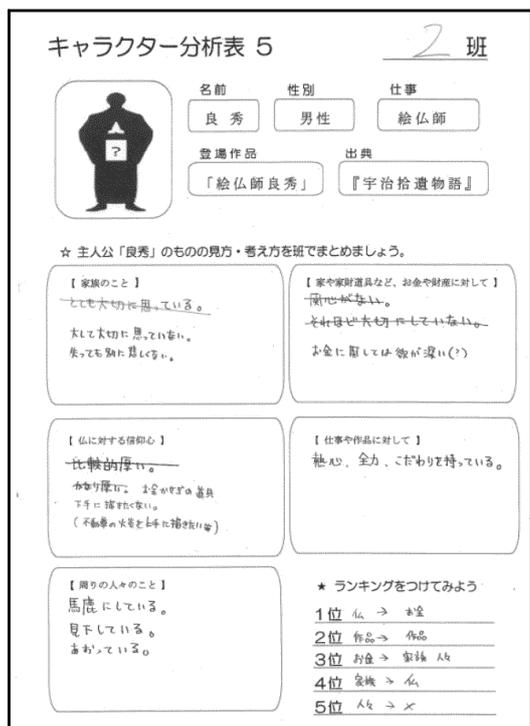


図2 キャラクター分析表

